様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　５ 月　４ 日現在

機関番号：１４４０１
研究種目：若手研究
研究期間：2019～2021
課題番号：１９Ｋ１９４５９

研究課題名（和文）がんサバイバーのライフコースに関する検討

研究課題名（英文）Clarification of life course of cancer survivor.

研究代表者
藤井　誠（FUJII, Makoto）

大阪大学・医学系研究科・特任准教授（常勤）

研究者番号：１０８０３７６０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,000,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は地域がん登録と死因情報を組み合わせた情報や、病院の長期コホートなど様々な既存データを基に検討した。
　がん患者の罹患後の経過年数と死因に関する検討では、第2がんを診断された患者の5年生存率をみると、多重がん患者の予後は、同時性では1つ目のがん、異時性では当該がんの影響が大きいと考えられることが明らかになった。
　また、がん患者の術後のストーマセルフケア能力の自立と全身状態の経時的な変化に関する検討結腸直腸がんによるストーマを造設した患者は、高齢であってもセルフケア能力を獲得する事が可能であるがこと。手術時の年齢や全身状態が自立したセルフケア技術の習得に影響を及ぼすことが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
これまで施設ベースの研究でしか実施することができなかったがん罹患者の死因情報を検討できたこと、単発がんだけでなく多重がんの死因に関する検討ができたことは学術的に意義が高いと考える。また、臨床の看護師が日々関わる中で積み上げてきた情報を基に手術時に高齢な場合はストーマに関するセルフケア能力を全て習得することは困難であるが、生活に必要なストーマパウチから排泄物を処理する能力は、高齢であっても８割以上習得する事が可能であることを明らかにできたことは、今後益々がん罹患年齢が高くなる、新時代におけるがん医療を考える上で重要な知見を提供するといえる。

研究成果の概要（英文）：　This study was based on a variety of existing data, including combined information from community cancer registries and cause-of-death information, as well as long-term hospital cohorts.
　In an examination of the years elapsed since the cancer patient was diagnosed and the cause of death, the 5-year survival rate of patients diagnosed with a second cancer revealed that the prognosis of patients with multiple cancers was considered to be significantly influenced by the first cancer with simultaneous cancer and by the index cancer with metachronous second primary cancer.
　In addition, a study on the independence of postoperative stoma self-management ability of cancer patients and changes in their general condition. It was found that age and general condition at the time of surgery had an influence on the acquisition of independent self-management skills.

研究分野：数理保健学

キーワード：がん　ライフコース　オストメイト　地域がん登録　競合リスク解析　多重がん　同時性がん　異時性がん

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

現在、がん罹患率は上昇し、がん死亡率は減少、がんサバイバーとよばれる、がんに罹患した人の数は急激に増加すると見込まれている。このような社会において、一度がんに罹患すると、次のがんに罹患しやすいのか。罹患したがんが原因で死亡するのか。他の疾患で死亡するのか。といった、がん罹患後のライフコースを明らかにする事が必要であり、海外からの報告がされ始めている。しかし、日本では、がん患者の多重がん罹患や死因を検討する大規模データベースは存在しない。がん罹患者の死因について明らかにすることは今後のがん医療の適正化において重要な課題である。

また、一方でがん患者の生活上の課題の検討も重要である。大腸・直腸がんの治療では、薬物療法が進歩しているが、わが国では外科的切除が基本であり、縫合不全防止のための一時的ストーマの造設を含めて、ストーマ保有者の増加と高齢化が進むと予想される。がん手術後にこれまでと異なる排泄方法を受け入れ生活する必要がある人工肛門保有者が、どのように排泄管理技術を習得し維持し続けるのかという実態を明らかにすることはがん罹患者のライフコースを検討する上で重要な課題である。

２．研究の目的

がん罹患情報と死亡情報を用い、がん罹患後の次のがん罹患や罹患時期、死因の種類や死亡時期についての検討を行う。また、がん手術後の人工肛門保有者が、どのように排泄管理技術を習得し維持し続けるのかという生活上の軌跡についての検討を行うことにより、がんサバイバーのライフコースについて明らかにする。

３．研究の方法

３－１．がん罹患後の次のがん罹患や罹患時期、死因の種類や死亡時期についての検討

がん罹患の全数登録である大阪府地域がん登録情報と死因情報の全数登録である人口動態統計を突合させた情報利用し検討した。がん部位ごとに死因を、①当該がん死亡（そのがんが原因で死亡する）、②他がん死亡（別のがんが原因で死亡する）、③非がん死亡（がん以外の原因で死亡する）の３つに分け、がん罹患日からの日数と死因ごとの死亡率および生存率を推定した。

３－２．がん手術後の人工肛門保有者の排泄管理技術習得に関する検討

大阪府下の急性期病院１施設にて 2013 年１月１日～2013 年 12 月 31 日の間にストーマを造設した全てを対象に、排泄管理技術を「装具交換：changing the ostomy pouch」、「排泄物処理：emptying the ostomy pouch」、「装具注文：ordering the ostomy pouch」の３つに分け検討を行った。

４．研究成果

４－１．がん罹患後の次のがん罹患や罹患時期、死因の種類や死亡時期についての検討

がん診断後すぐの段階では、当該がん死亡が多く経過を経るごとに多がん死亡や非がん死亡が増加することが明らかになった。がん部位では、胃がんや大腸がんといった比較的予後の良いがんだけでなく、膵がんや胆管がんといった予後の悪いがんであっても同様の軌跡となった。一方で、肝がんや乳がん、悪性リンパ腫といった部位は診断後長期に亘り当該がん死亡が多くみられ、部位ごとに死因と診断後の経過年数では特徴が異なることが明らかになった。また、第 2 がんを診断された患者の予後と死因について、同じ部位の単発がん患者と比較することを目的とした分析を実施。第 2 がんを診断された患者の 5 年生存率は、胃では同時性第 2 がんが単発がんより低く、異時性第 2 がんでは同程度であること。肺では同時性・異時性第 2 がん共に単発がんを下回ることはなかったこと。多重がん患者の予後は、同時性では１つ目のがん、異時性では IC の影響が大きいと考えられることが明らかになった。

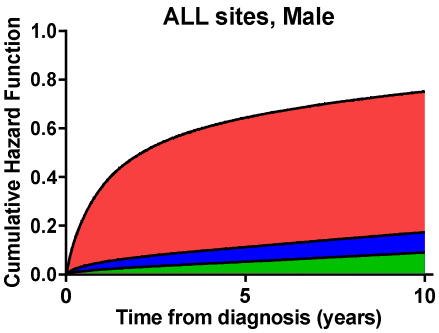

図１．がん罹患後の死因別累積死亡率

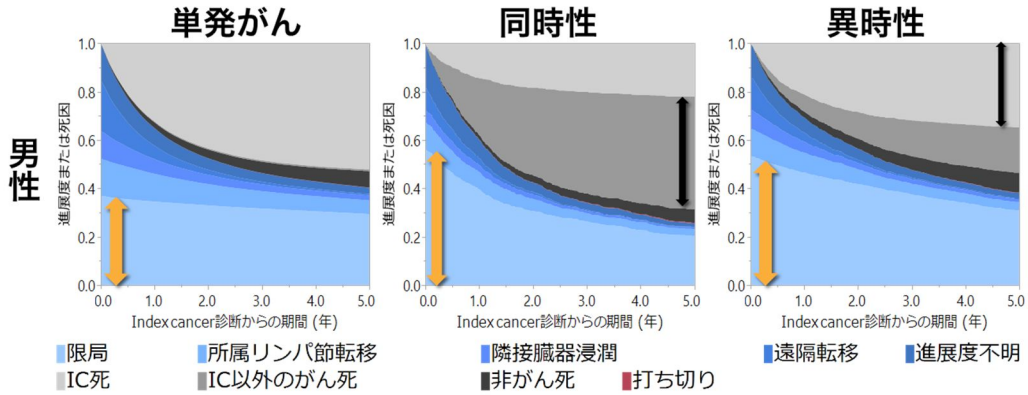

図２．単発がん、同時性多重がん、異時性多重がんのがん罹患後の進展度別死亡割合

４－２．がん手術後の人工肛門保有者の排泄管理技術習得に関する検討

ストーマ造設後の排泄管理技術の習得の実態と習得に関連する要因を明らかにすることを目的とした検討では、長期間の縦断的な追跡調査により、結腸直腸がんによるストーマを造設した患者は、高齢であってもセルフケア能力を獲得する事が可能であるがこと。高齢者や全身状態を示す指標である ECOG-PS（Performance Status)が３以上になると自立したセルフケア技術を習得することが難しいながら、排泄物をストーマパウチから排出すつという行為はたとえ高齢であっても８割以上の方が自力で行えることができるということを原著論文で報告した。

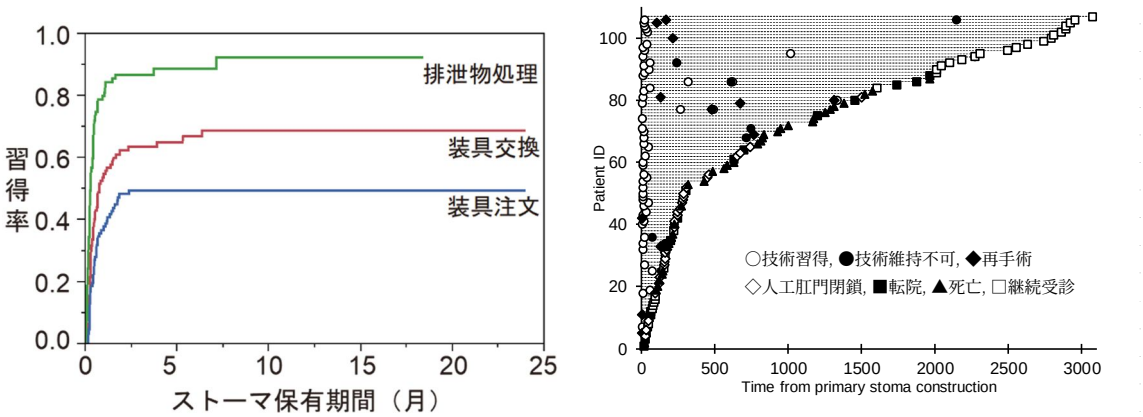

図３．人工肛門造設後経過年数と排泄技術の習得の関係

2019 年度～2021 年度の期間中、継続的に研究成果を国内外の関連学会で発表した。ストーマ排泄管理の技術習得は、原著論文として発表を行った。今後は、各データベースについて詳細な検討を進めていくとともに、期間中に発信できなかった結果について論文化を進めていく予定である。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計3件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　3件）

１．著者名 藤井 誠、安藤 嘉子、遠藤 麻子、大野 ゆう子	４．巻 25
２．論文標題 ストーマ保有者の排泄管理技術習得の実態と習得に影響を与える要因に関する縦断的研究	５．発行年 2022年
３．雑誌名 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌	６．最初と最後の頁 665～676
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32201/jpnwocm.25.4_665	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Ando Yoshiko、Takahashi Arata、Fujii Makoto、Hasegawa Hiroshi、Kimura Toshimoto、Yamamoto Hiroyuki、Tajima Tetsuya、Nishiguchi Yukio、Kakeji Yoshihiro、Miyata Hiroaki、Kitagawa Yuko	４．巻 6
２．論文標題 Survey Regarding Gastrointestinal Stoma Construction and Closure in Japan	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Annals of Gastroenterological Surgery	６．最初と最後の頁 212～226
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/ags3.12521	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 酒井 透江、松原 康美、片岡 ひとみ、安藤 嘉子、三富 陽子、渡邉 光子、藤井 誠、土田 敏恵	４．巻 25
２．論文標題 ストーマ保有者のストーマ用品費用の自己負担額と負担感に関する要因の分析	５．発行年 2021年
３．雑誌名 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌	６．最初と最後の頁 566～575
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32201/jpnwocm.25.3_566	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計6件（うち招待講演　0件／うち国際学会　4件）

１．発表者名 Mayumi Nagayasu, Makoto Fujii, Haruka Kudo, Yuko Ohno
２．発表標題 The life course of cancer survivors: support for survivors of cancer with anxiety about multiple cancers
３．学会等名 23rd EAFONS（国際学会）
４．発表年 2019年～2020年

１．発表者名 Makoto Fujii, Yoshiko Ando, Yuko Ohno
２．発表標題 Support needs among eldery and older ostomates: assessment of functional independence and quality of life
３．学会等名 23rd EAFONS（国際学会）
４．発表年 2019年～2020年

１．発表者名 Makoto Fujii, Takafumi Shinagawa, Mayumi Nagayasu, Haruka Kudo, Toshitaka Morishima, Yuko Ohno, Tomotaka Sobue, Isao Miyashiro
２．発表標題 Cause of death among 688,474 cancer patients: NANDE study linking vital statistics data and population-based cancer registry data.
３．学会等名 2019 Vancouver: NAACCR / IACR Combined Annual Conference（国際学会）
４．発表年 2019年～2020年

１．発表者名 Mayumi Nagayasu, Makoto Fujii, Takafumi Shinagawa, Haruka Kudo, Toshitaka Morishima, Yuko Ohno, Tomotaka Sobue, Isao Miyashiro, Group NANDE
２．発表標題 Features of the cause of death by age in breast cancer patients and by years after diagnosis: NANDE study linking vital statistics data and population-based cancer registry data.
３．学会等名 2019 Vancouver: NAACCR / IACR Combined Annual Conference（国際学会）
４．発表年 2019年～2020年

１．発表者名 藤井誠，安藤嘉子，大野ゆう子
２．発表標題 ストーマ保有者のライフコースに関する検討 排泄自立状況と身体機能の変化に影響を与える要因
３．学会等名 第38回日本看護科学学会
４．発表年 2019年～2020年

１．発表者名 工藤 榛香，森島 敏隆，藤井 誠，永安 真弓，加藤 美寿季，尾谷 仁美，桒原 佳宏，中田 佳世，祖父江 友孝，大野 ゆう子，宮代 勲
２．発表標題 第2がんを診断された患者の予後と死因 ～単発がん患者との比較
３．学会等名 日本がん登録協議会 第30回学術集会
４．発表年 2020年～2021年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	大野　ゆう子 (Ohno Yuko)	大阪大学・医学系研究科・教授 (14401)	
研究協力者	永安　真弓 (Nagayasu Mayumi)	兵庫医科大学・看護学部・助教 (34519)	
研究協力者	工藤　榛香 (Kudo Haruka)	地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪国際がんセンター（研究所）・がん対策センター政策情報部・保健師 (84409)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関